学生新聞

放送大学
埼玉学習センター
埼玉CSC交流会
学生新聞
編集委員会
〒330-0853
さいたま市大宮区
錦町682-2
TEL048-650-2611

第11回埼玉フェスタを開催
大賑わいの埼玉学習センター
ビッグバンドのジャズ生演奏会で
華やかに締めくくり

今年の第11回埼玉フェスタは、9月第2週の週末9日（土）と10日（日）の両日に開催された。埼玉学習センターは、交流を求めて集まった大勢の学生達や同窓生等で大賑わいとなった。

9日（土）

いつもは10月に行われる埼玉フェスタが9月に開催されたのは、「入学者の集い」とぶつかって、混乱することを避けたため。初日は、オープンと同時に、個人展示やバザーなどが9階で始まった。同時に第1講義室では、熟年会の公開講演会があり、12時からは第6講義室で音楽サークルの合唱などが行われた。8階講堂では14時から、足立学習センターの柴眞理子所長による公開講演会が開催された。演題は「身体表現の力～からだは語る～」という、健康志向の現代人にとって身近な問題であり、100名以上の参加者が熱心に聴講した。

10日（日）

フェスタ2日目は、朗読の会「こころ」の朗読劇、花森安治作の「一銭五厘の旗」で開幕した。「こころ」は毎年、熱心な固定ファンが楽しみにしており、独特の世界観に引き込まれた。第1講義室ではサークルおおみやによる映画「沈黙」のDVD鑑賞会が催された。

第5講義室では未来の会による毎年恒例の「絵手紙教室」が行われ、会員から指導を受けながら、何人もの参加者が絵手紙に挑戦をしていた。また8階講堂では、午後から、健康体操研究会の指導で、ストレッチ体操やダンス体操、ベリーダンスが行われ、沢山の参加者が楽しく汗を流した。続いて、ソシアルダンスクラブのフォーメーションダンスなどが披露された。

一方、実習室ではパソコン教室が熟年会の主催で行われ、今年はオートシェイプを使って、コスモスの花を作成する作業を実際に経験した。

2日間共通イベント

第2講義室では各団体の活動が写真やポスターなどで紹介された。第3講義室では3団体によるバザーが今年も行われた他、秋父の物産展がブースを設けて、バザー会場は様々な品々を買い求める客で賑わった。

第4、第5講義室には個人作品の展示が行われ、個人の力作が展示された。

9階ロビーには茶席が設けられ、茶席を訪れた客人は優雅な空間で、抹茶のサービスを堪能した。恒例の俳句・川柳大会では鑑賞者の選句により、各3句の入選作品が交流パーティで表彰された。

最終日には8階講堂でジャズ演奏会が開催された。今年は総勢17名もの大編成で、懐かしいジャズのナンバーが次々と演奏され、曲に合わせてダンスを楽しむ参加者も多数いた。最後は来年のフェスタでの再会を誓って、散会となった。（冬木）

第11回埼玉フェスタ俳句・川柳大会

＊俳句入選句

廃坑の夕日に染まるねこじゃらし　難波明美
宙乗りに梨園の矜持夏芝居　加治原二仁
秋立ちて新たに開く書の扉　鎌田伸弘

＊川柳入選句

俳句囲碁何もしないとボケますよ　難波明美
北からのミサイル通過とんだ朝　榊　由美
高齢期過ぎても花の女子大生　橋本安義

第11回埼玉フェスタご協力のお礼
埼玉ＣＳＣ交流会　代表　嶋﨑洋明

第11回目の「埼玉フェスタ」は例年より1か月早い9月9日・10日の2日間、埼玉学習センターで開催し、新たなスタートを切りました。

渋谷センター所長のご尽力により講演者に足立学習センター所長の柴眞理子氏の「身体表現の力―からだは語る・からだで語る」の公開講演をして頂きました。

今年も、埼玉同窓会の武内さんのご支援により、「秩父の物産」販売と新たに、「むぎの会」代表福盛田さんのご協力により「陸前高田市の海産物」販売が行われました。同窓会・岡里さんほか、有志のご協力により「お茶席」を開く事が出来ました。恒例となった同窓会の鈴木さとみさんとジャズの仲間によるジャズ・ライブ・コンサートが開催され、懇親パーティでも演奏が行われて、大変盛り上がった懇親会となりました。今年の作品展示には、福盛田さんのご支援・協力により学生さんの絵画・書の出展が多数寄せられました。

「埼玉フェスタ」の開催に際しては、実行委員、学習センター、埼玉同窓会・各学生団体の皆様のご支援・ご協力を賜り、CSC交流会の代表として、衷心よりお礼申し上げます。

今後とも、埼玉センターの発展を祈念すると共に、「埼玉フェスタ」が引き続き学習センターの教職員・学生・同窓会、各学生団体の皆様の懇親・交流の輪を広げる場として充実していくために、「CSC交流会」が担う役割の重大さにつき認識を新たにしております。誠に有難うございました。

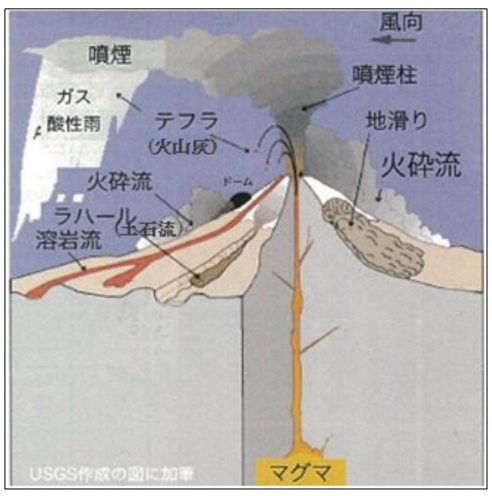
公開講演会《正しく怖がるーpart2》
「日本にはなぜ火山が多いのか？
―マグマ活動と火山噴火―」を聴いて
埼玉学習センター　鈴木智義

3年前の御嶽山の突然の噴火による被害、西ノ島新島の出現など、東日本大震災の後に各地で火山活動が活発化しているようにも思えます。またこのような自然災害の予知レベル向上や、発生メカニズム解明についてもマスコミに度々取り上げられ、近年頓に関心が高まっています。私の出身地の群馬県西部は浅間山の東側に位置し、天明３年の大噴火による噴石（軽石）の厚い地層が今でも残っています。その地域では作物は育たず、長年に亘り飢饉に苦しめられた事を知っていたので、講演を興味深く聴きました。

講師の上木賢太先生（海洋研究開発機構・研究員）は30歳代後半の活力ある火山研究者で、火山活動の様相や噴火のメカニズム、遠い過去から近年の火山噴火の歴史と、その規模や防災対策の現状など、火山噴火に関連する広範な話を伺いました。

火山活動とはどのような現象か？

火山とは、地中深くの地殻の岩石が溶けて生じるケイ酸塩（Si02）を主体とするマグマが、地表に噴出して出来た山である。噴火の前には地震活動、火口温度上昇、山体膨張、熱水現象などの活動が認められる。噴火には、マグマやガスが地表まで上がって来て噴出するマグマ噴火と、地中深く潜り込んだ水が熱せられて水蒸気になって噴出する水蒸気爆発とがある。これらに加えて、山体の岩石が砕けて同時に噴出する。大規模な場合は山体崩壊が起こる。これらはいずれも非常に危険な状態で緊急避難が必要である。そのために火山の常時観測や噴火予知が重要であることは言うまでもない。



上木講師の資料を一部補足

マグマの生成メカニズム

日本列島周辺ではプレートの沈み込みに伴って大量の海水が地下深く流入している。深さ100～150Kmの所で海水が高圧のため絞り出される。また地球深部に存在する超高温・超高圧のマントル岩石が、プレート運動やマントル流動によって上昇してくる。これと絞り出された海水とが、深さ30Km付近で接触することによりマントル岩石が溶けて1000℃以上の流体マントルや水蒸気になる。これが更に地下10Km付近に上昇してマグマ溜まりを形成する。ここから火山に熱やガス、熱水が供給される。これにより噴気や熱水現象、火口温度上昇、地震活動、山体膨張などが起こる。さらに水蒸気爆発、マグマ爆発などに発展すると噴火が起こる。

なぜ火山は噴火・爆発するのか？

炭酸飲料は約４気圧のボトルの中で二酸化炭素（CO2）が水に溶け込んでいる状態である。これを開封すると、急速に圧力が低下し、二酸化炭素が気体に変化して、急速に体積が増大する。

火山噴火も同じ原理で、マグマ上昇による圧力低下により、マグマに含まれている水やCO2が水蒸気や火山ガスなどの気体に変化して、体積が著しく膨張し、溶けたマグマや周囲の岩石を破壊して一挙に噴出する。噴き出されるものは溶岩流や火砕流、火山灰、酸性ガス（雨）、噴煙などとして、山体を流れ下ったり、空中に飛散する。（図参照）こうして火山周辺は言うに及ばず、何百Kmもの遠方にまで被害が波及する。噴石の堆積による耕作不能や、空中の火山灰により日光が遮蔽されるために寒冷化が起こり、作物が育たなくなって、その被害は長い年月に亘り住民を苦しめる事になる。

この様に火山噴火は我々に深刻な被害をもたらす。噴火の確実な予測は未だ不可能であるが、被害を減らすため、また予知能力向上のために、主な火山では常時観測体制がとられている。

今回の講演を聴いて、火山噴火について、そのメカニズムや過去の大噴火の歴史と被害規模、噴火予知のための観測体制など、火山活動に関わる多くの事柄について知ることができた事を感謝します。

事務室からのお知らせ

卒業証書・学位記授与式

9月24日（日）午前11時から埼玉学習センター講堂にて、平成29年度第1学期の卒業証書・学位記授与式（卒業87名・修了生1名）が行われました。また、生涯学習奨励賞の授与もなされました。

《生涯学習奨励賞受賞者》（敬称略）

・金賞＝田口和美、奈良原忠
・銀賞＝青木一男、木本安代
・銅賞＝河野美貴、坂田友信、戸塚秀明、長橋勇、宮澤克子

入学者の集い

平成29年度第2学期の入学者の集いが10月8日（日）、武内埼玉同窓会長、嶋崎CSC交流会代表のご臨席のもと開催されました。なお、学部105名、大学院10名の出席者がありました。

面接授業の空席発表

平成29年度第2学期の面接授業の空席は10月14日（土）以降、学習センターでの掲示、キャンパス・ネットワーク・ホームページでお知らせしております。また、10月20日（金）15時以降は、システムWAKABAで空席状況を確認できます。

学生手帳

「チャイコフスキーの二大協奏曲」
笹原誠二

6月末のことになるが、「名曲コンサート・チャイコフスキー2大協奏曲の宴」と題する演奏会に妻と一緒に出かけた。

演奏曲名は「ヴァイオリン協奏曲ニ長調作品35」と「ピアノ協奏曲第1番変ロ短調作品23」の2大協奏曲のほか、歌劇「エフゲニー・オネーギン」からのポロネーズの3曲、いずれもチャイコフスキーの代表曲であるが、特に2つの協奏曲の演奏には感銘した。

チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲はメンデルスゾーンらの曲と共に3大協奏曲と言われる名曲である。今では多くのソリスト達に演奏されているが、驚くことに初演奏の時は野次と怒号が飛び交う状態だったという。多分、ヨーロッパ音楽の中心たるウィーンの人々にはチャイコフスキーの故郷であるロシアに対する偏見が少なからず存在したのであろうし、しかも、その時のウィーンフィルの演奏が万全なものではなかったようだ。確かに演奏するには大変難しい曲ではあるが、軽やかなメロディの中に構成豊かな調べとコントラストが楽しめる曲だと思う。

一方のピアノ協奏曲第1番は、いわずと知れた名曲中の名曲で、協奏曲の中でも私が最も好きな曲の1つである。オーボエ、クラリネット、ホルン、フルートと独奏のピアノとのハーモニーが実にすばらしく、互いにひきつけあって、演奏しているソリストとオーケストラの一体感に思わず息を呑んでしまう。私にはベートーベンの「運命」と同様にこの曲のピアノ演奏に力強さと男らしさを感じつつ、腹の底から勇気が漲ってくる様な曲ではないかと思っている。

銀色の日々

「気仙沼から仙台へ」

大西　亮

東北の被災地の人たちは復興への意気に燃え、そして心優しい人たちだった。市役所の方も、JRの駅員さんも、タクシーの運転手さんも……。

今回の計画について日帰りではもったいない、出来ることなら現地で別れて、気仙沼の魚市場を見学し、仙台まで海岸線を辿ってみたいと思ったので相談したところ、異存がないとの了解をもらった。7月11日の夕方一行と別れ、後は一人旅となった。

市の職員さんから気仙沼行のバス路線について教えてもらい、少し歩くとバスセンターはすぐ見つかった。昔の気仙沼線は今はなく、陸前高田から気仙沼経由で石巻の近くまでおよそ100キロメートルはラビット・トランジットというバスが走っていた。鉄道のレールは取り払われて舗装道路となり、元のトンネルもそのまま利用し、JRバス専用の道路となって、一般道と専用道路が適当につながっている。海岸線は各地で大掛かりな復旧工事が行われているが、その足取りは遅れているようだ。出発後40分で気仙沼に着いた。

すでに夕方、タクシーに乗りホテルの名を告げ、運転手さんに二つのことを尋ねた。一つは食事処を紹介してもらうこと、二つ目は翌朝の魚市場の見学のことだった。

「安くて美味しいお薦めの店がありますよ。店の名は『ピンポン』（居酒屋）」。

二つ目の答えは、「見学は7時からです。7時10分前にホテルに迎えに行きます」と、てきぱきとした返事。ホテルで宿泊の手続きを済ますと、「ピンポン」まで送ってもらう。店に入るや板前さんは慣れたもの、今日のお薦めコースの相談に乗ってくれた。運転手さんの話に偽りはなく、魚の本場の味を堪能した。

翌7月12日、7時前に市場に着くと、仲買人らしい人が、「この階段を昇って、案内板のとおり見学デッキを進んでください」と、教えてくれた。

大きなクロマグロから鰹まで、形の大きい物から小さな物まで順番に整然と並んでいる。太い丸太のような鮪が数十本も並んだ光景は壮観だった。写真を撮り、セリの風景を見学しつつ、デッキを進むと年輩の職員さんが向うからやってきた。朝の忙しい時に声を掛けて吉と出るか、凶と出るか、思い切って話しかけた。

「おはようございます。あの見事な鮪は一本いくらくらいですか」

「早朝からの見学にようこそ。あれは一本30万円くらい。一人の漁師が一日に5本も獲れれば笑いが止まりませんよ。ところで昨日の夕飯はどちらでしたか」

「ピンポンです」

「あそこなら初めてのお客さんにお薦めだったですね」

話ははずみ、魚の名前やセリのことなど、いろいろと説明してくれた。心地よい会話に感謝して笑顔で別れた。勝手な推測ながら、日本有数の漁港気仙沼は今後どうなるのであろうか。漁船は幹部を除けば外国人が支えており、日本の若者は漁業を敬遠している。また、メインストリートはシャッター通りとなっている。

見学を終わって、またバスに乗り、南三陸町の美しく穏やかな海岸線を車窓から眺めたが、あの大災害が信じられなかった。同じように押し寄せる巨大津波でも、前の海が大きく広がっている陸前高田や南三陸と、入り口の狭い気仙沼や沖に沢山の島々が浮かぶ松島とでは、地形の違いで被害の程度に差があったように推察された。

新幹線なら大宮から仙台間をノンストップの列車が走る時代に、ローカル線を一日かけて旅するのも味わい深かった。災害の現場を目の当たりにした体験は生涯忘れることはないだろう。

丸太のように並ぶマグロ

サークル紹介
「サークルおおみや」　会表　野呂生男

「サークルおおみや」は、「会員それぞれの個性・人格を尊重し、親睦を深め豊かな人間関係を築くこと」を目的にほぼ20数年前に公認の学生団体として設立され、「コンサート鑑賞」「ハイキング（散策）」「研修旅行」「美術鑑賞」「懇親会」「会誌発行」など、主に屋外での活動を年間を通じて実施しております。

因みに、平成27年度のこれまでの活動は、4月には、「オルセーのナビ派展」（三菱一号館美術館）を鑑賞後、皇居付近での花見、5月前半には「ミュシャ展」（国立新美術館）及び「大エルミタージュ美術館展」、また5月後半は「江戸東京博物館＆両国歴史散策」、そして6月は東京文化会館での「モーニングコンサート　創遊・楽落らいぶ、音楽家と落語家のコラボレーション」を鑑賞しました。毎年8月には、年度の後半の計画を策定し、映画の上映会なども催しております。今年度後半の計画としては、10月は、都内の歴史探訪として「日暮里・谷中の著名人の墓碑を訪ねる」歴史散歩、11月は、伊豆への1泊研修旅行、12月は、「浅草演芸ホールで落語と楽しむ会」、1月は「新年会」、そして、2月及び3月は、会員の皆さんの希望を基に次年度の計画立案を行います。これがほぼ一年間の活動内容です。会員の皆さんとのコミュニケーションは、放送授業のみでは得られない発見や覚醒など、知の地平を拡げる良い機会となるものと思います。

また、会員の皆さんからのいろいろな経験を発表する場として、年度末に会報誌を編集・発行しております。厳しい決まりは設けておりませんので、どんなことでも発表していただくことを期待しております。

とかく独習で孤独になりがちな放送大学の学生生活が、会員同士のコミュニケーションを通じて、潤いのある豊かなものとなることを期待しております。現在会員数は30人で、年会費は2000円となっております。いつでも入会可能です。気楽にご相談して下さい。

連絡先：会長：野呂生男（電話：090－1040－0259、パソコンメール：yqwoknolo@jcom.home.ne.jp）

サークル紹介
埼玉英語倶楽部
代表　矢野俊博

埼玉英語倶楽部は、1997年に面接授業の“英語Ⅲ”を受講した仲間が集まって作ったEnglish Speaking Clubが母体で、約20年の歴史があり、現在は４クラスで構成されています。会員は時間の都合や興味に合わせて、単数または複数のクラスに参加しています。各クラスのリーダーのコメントをご紹介します。皆様のご参加をお待ちしています。

【火曜午前クラス(10:15～12:15)】

英国の英語学校講師は、日本人学生の一般的傾向として、文法には強いがリスニングには弱い、と評しています。リスニングに弱いのは、日本人の学習が英文購読や文法中心であり、リスニングの練習にあまり時間を割いていないためと思われます。リスニングの練習に重点を置き、英語を耳で聞いて、聞き取った英文を書き取る練習をします。毎回、NHKラジオ英会話の教材を使って50分、NHK英語ニュースで30分、合計80分の書き取り練習をします。この練習方法はリスニング力を高めるのに効果があります。英米人の英語を何度も繰り返し聞いて、英語の音声に慣れてくると、聞き取れる単語の数が次第に増えて行きます。日常会話でも、相手の話している内容が聞き取れないと会話が成り立ちません。

【火曜午後クラス(13:00～15：00)】

基礎的な英語を始めたい方に一番適しており、「英語の勉強が長続きがしない、楽しくない、効果が上がらない」等の悩みをお持ちの方は遊びに来てください。アットホームなメンバーが集まっています。日常会話の基本、海外旅行で役立つ英語を学びます。教材はNHK「おとなの基礎英語」および英語音読マスター「英語の『型』が身につく100回音読」です。グループで勉強した後、個人で復習しやすいようにしてあります。皆さんで一緒に楽しく英語を学びましょう。

【木曜午前クラス(10：00～12：00)】

このクラスは倶楽部発祥クラスで、①英語に触れたい、英語に関心がある、英語を使って楽しみたい。②そのような仲間と一緒になり、刺激をもらう、を基調として英語の練習に取り組んでいます。具体的には毎週dictation, grammar, compositionの内容を週の担当者がリードする形でlessonを進めること、又月１回英国人の講師を迎えnative Englishを体験することで、「聞く―話す―書く」の英語力向上を目指しています。メンバーは現在14名で各自が目的に合わせた重点目標が設定されています。クラス外では、積極的に海外旅行に出かける人、ボランテイア活動を行う人、海外のグループと交流を図る人等英語の実践は様々です。

【木曜午後クラス(13：05～15：05)】

このクラスは、約10名の会員です。中級レベルの語学力を目指し勉学に励んでいます。内容は、①話すためのリスリング(中級用)　②文で覚える単熟語　③トラッド・ジャパン　④Grammar, Vocabulary in useのテキストを使って、会員の中から月当番を3名が交互に担当しています。第2週目トラッド・ジャパンのみが固定講師です。このクラスの雰囲気は間違いを気にせず、どんどん発表をすることを念頭においてお互いに学習し合っています。間違いがあったらその分記憶に残すことができる位の気構えがあるため、学習し易く、また珍訳等などがあり、笑いを誘いながら楽しく学習しています。

事務室からのお知らせ

面接授業追加登録期間

面接授業の追加登録期間は、10月20日（金）から科目ごとに定められた追加登録受付期限日（通常は開講日の１週間前）までとなります。

通信指導の提出期限

通信指導の提出期限は、11月30日（木）です。郵送の場合は大学本部必着、Ｗｅｂの場合は17時までとなっています。未提出・不合格の場合は、単位認定試験が受けられません。

サークル案内

サークル　おおみや

★11月30日～12月１日
「一泊研修旅行＝伊豆半島方面バスの旅」

一般公開講演会
いずれも埼玉学習センター８Ｆ講堂・14時～

【正しく怖がる　パート２】　第２回
★11月12日（日）
講師＝漆原秀子（筑波大学名誉教授）
演題「人が『ゲノム』を作り変えるとき―遺伝子操作テクノロジーの進展、恩恵と不安―」

【芸術は人間を救うか】　第４回
★12月16日（土）
講師＝大橋修一（埼玉大学名誉教授・川口短期大学こども学科教授）
演題「漢字の文化史」

お申込みはいずれも埼玉学習センターへ（☎048―650―2611又は、窓口・ＨＰ）

三郷市教育委員会と共催
＊申込・問合せは三郷市教育委員会生涯学習課（☎048―930―7759）

★11月25日（土）
講師＝板垣時夫（元埼玉県立歴史と民俗の博物館副館長）
演題「埼玉東部地域の民俗～三郷市域の水に関わる信仰・行事・伝承～」

「サロンしぶや」　第１講義室　14時～16時

【戦後中編小説の代表作―さまざまな人間観と味わい―】　第４回
★11月24日（金）
講師＝渋谷治美（埼玉学習センター所長）
テーマ＝「大岡昇平　『野火』」

江戸時代の古文書を読む会
★定例会＝10月29日（日）、11月19日（日）
さいたま新都心より午前７時半出発
★12月18日（月）
浅草演芸場で「落語を楽しむ会」午前10時半に演芸場前に集合

俳句（つみ草）

夕空の翳りゆくなり鵙の贄　光娥
水音に星の濃くなる下り鮎　十詩
晩秋の明治を今に時の鐘　明美
新蕎麦の一番町を走り抜け　由美
紅葉且つ散り石つめる賽の神　順
岸壁の先の青空根釣人　厚子
まだ緑残してをりぬ鵙の贄　陽子
鉄瓶の噴き上がる湯気秋深む　八重子
てっぺんの乾くほかなき鵙の贄　安代
百穴の洞ろに垂るる鵙の贄　とく江
見上げれば月に色なし鵙の贄　保子
まほろばの富士の峯雲こぼれ萩　功

≪見学歓迎　第２木曜日　午後１時より≫

健康体操研究会

★活動日＝毎週火曜日（10時30分～12時）
場所＝８Ｆ講堂
今後の予定＝11月７日、14日、21日、28日
12月５日、12日、19日

朗読の会「こころ」

★10月20日　第６講義室
27日　第１講義室
★11月10日　第１講義室
17日　第４講義室
24日　多目的室
★いずれも金曜日
10月は９時半～14時
11月は９時半～17時

むぎの会

★12月２日（土）13時半～15時半・８Ｆ講堂
「お掃除文化の再発見」
申込＝福盛田恵子（080・1242・7352）

編集後記

気温の上下の激しさに、戸惑いを感じた方が多い10月でした。予防接種の時期が来る前に、インフルエンザが流行を始めているそうです。早めの冬の準備が必要になりそうですね。皆さまのご健勝を祈念しています。（冬）